

ちいさいおに

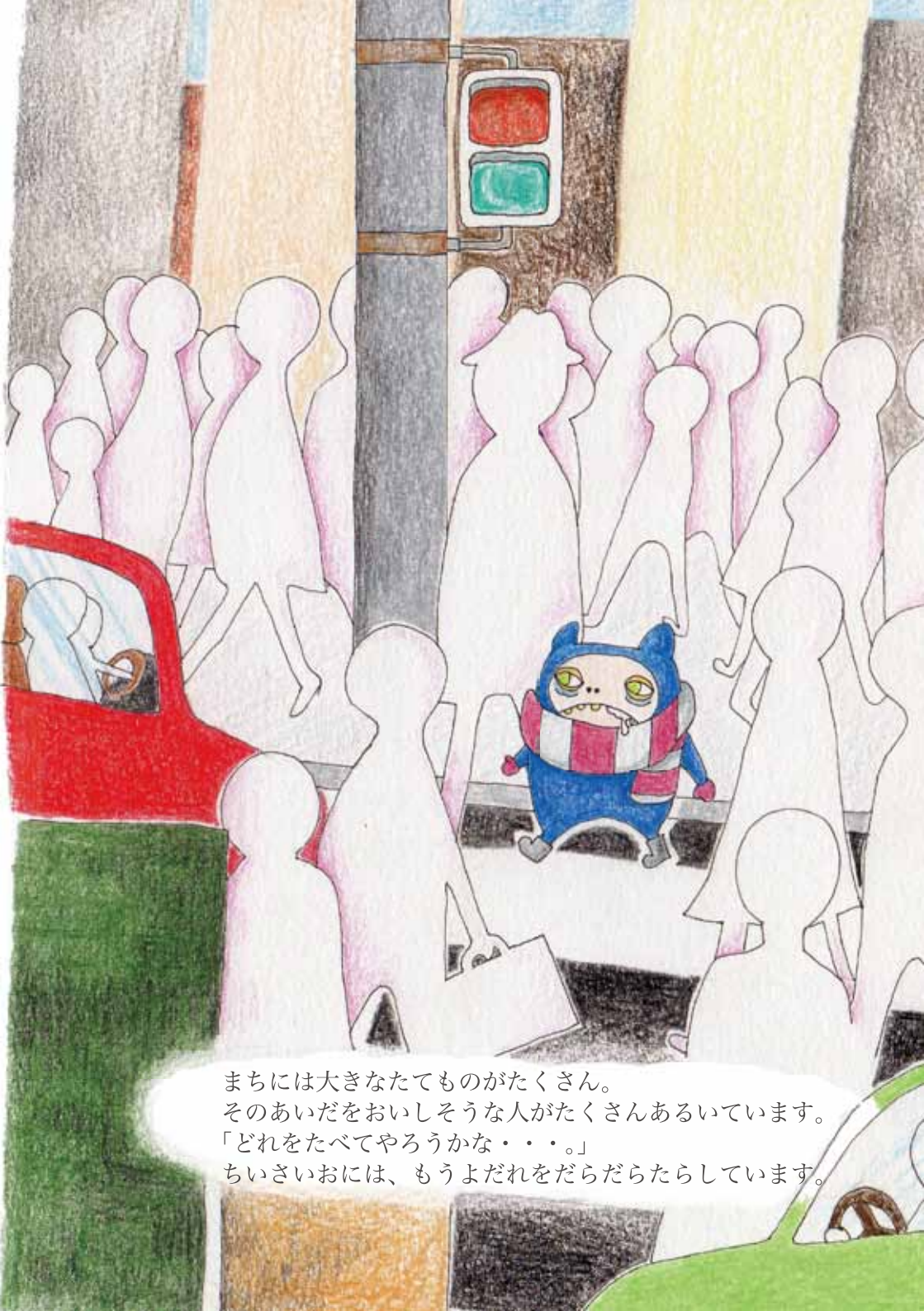


さんぐう まいこ

おなかもぺこぺこで、もうしんでしまいそうだったある日。
「どうせしぬのなら、さいごに人をたくさんたべてやろう。」



そうかんがえたちいさいおには、
へんそうしてまちへおりてゆきました。



まちには大きなたてもものがたくさん。
そのあいだをおいしそうな人がたくさんあるいています。
「どれをたべてやろうかな・・・。」
ちいさいおには、もうよだれをだらだらたらしています。

そのとき、うしろから「ドンッ！！！」

なにかがちいさいおににぶつかりました。

ふりむくと、そこにはおじいさんがころんでいました。



ちいさいおには、大きな口をあぐりとあけて、
おじいさんをたべようと思いました。



ところが、おじいさんはすこしもおどろかずに
「すみません、わたしは目がみえないもので。」
といったのです。